

ご挨拶

志音会オーケストラ代表 等々力 康友

およそ60年前の戦後間もない頃、西堀の洋画映画館「セントラル座」で行なわれた「第9」の演奏に、深志高校音楽部 室内楽班（音楽部は合唱班と室内楽班で構成され、室内楽班は、当時は弦楽班と呼ばれていた）のメンバーが参加していたことが、志音会の記録にあります。

アンサンブルで弾けるようになるには楽器を始めてから最低でも4、5年は掛かる弦楽アンサンブルが、当時から存在したことは驚きであります。指導者が居たわけでもなく、人数は3学年合わせても数名からせいぜい10名程度の自主団体の室内楽（弦楽）班が、これまで60年間継続してきていることがもっと驚きです。（今年は「のだめ」効果でメンバーは10名を超えているようです。）室内楽班OBはすでに200名を超えています。

深志高校音楽部OB「志音会」の活動としましては、深志高校の周年祭などにその都度、祝祭的オーケストラを編成し、合唱班OB諸君と合同で「第9」「ミサ曲」などを演奏して参りましたが、6年前に演奏技術の向上を目的の一つに加え、室内楽班のOBを中心として常設の弦楽アンサンブル「志音会オーケストラ」を編成しました。

首都圏域在住のメンバーも多いため、ほぼ毎月東京と松本とで交互に練習を行い、これまで「志音会オーケストラ」として2回の定期演奏会を開催して来ましたが、今回は吹奏楽部OBなどの管、打楽器も加わって2管編成のフルオーケストラを編成し、「運命」「未完成」を演奏することになりました。

今回は、時間的な制約により管、打楽器全てをOBで揃えることは出来ず、県内各地の音楽団体に活躍されている方々の応援もお願いしました。来年3月には、合唱OBの諸君との合同演奏会を予定しており、2年後には次回の定期演奏会を予定していますが、出来るだけOBによる管、打楽器を揃えるように努め、メンバーが松本、東京等に分散していることによる地理的条件の困難さ乗り越え、アンサンブル力を向上させて、ブラームス、メンデルスゾーンなどの交響曲を演奏出来る団体に成長させたいと考えております。今後も皆様のご支援をよろしくお願い致します。

本日は、室内楽班の現役生も加わった「志音会オーケストラ」の演奏で、藤本淳也先生のオーソドックスなドイツ古典音楽をお楽しみください。（15回卒）

素晴らしい曲目の演奏会にぜひ

松本深志高等学校同窓会長／国際教養大学学長 中嶋 嶺雄

わが国最古の歴史をもつ高校といつてよい松本深志高等学校は、学問や芸術の分野でも多くの人材を輩出しています。その象徴的な証しが、50有余年月も続いている音楽部とそのOB・OGから成る志音会なのです。

3年程前には、創立130周年記念行事の一環として、志音会が合唱団とオーケストラ約200名の大編成でモーツァルトの「戴冠ミサ」を全曲演奏するという壮業を成し遂げました。私も参加させていただき、16歳の現役学生と並んで、50歳以上の年齢差があるというのに、第一ヴァイオリンのパートを弾くことができました。

今回の志音会の演奏会には、入試の期間中なので残念ながら参加できませんが、本当は私もぜひ一緒に弾きたいのです。それは曲目がベートーヴェンの「運命」、シューベルトの「未完成」といった誰もが親しめる交響曲であることに加えて、モーツァルトの歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」序曲が入っているからです。男女関係の機微を面白く描いた「コシ・ファン・トゥッテ」は、私にとっても思い出深いオペラの一つであり、その明るく軽快な序曲も大好きな曲の一つであるからです。

今回の演奏会のご成功を、雪の秋田からお祈り致しております。

（7回卒 志音会会員）

ご挨拶

志音会会長 林 哲郎

このたびは第3回志音会オーケストラ演奏会にお越しいただきありがとうございます。

4年前の130周年記念演奏会をステップとして、このような演奏会を定期的に行なうことはこの上ない喜びです。ご承知のとおり志音会は、在学生～80歳代の幅広い年齢層、現役の音楽家・趣味として音楽活動をする人から、卒業以来楽譜から遠ざかっている人まで、とその構成は多岐にわたっています。その中で現役生を交えた演奏会が出来ることを大変嬉しく思います。今回は藤本淳也先生を指揮にお招きし、幅の広い会員演奏者の思いをひとつの形にまとめていただくことが出来ました。音楽を通じた会員相互の交流と親睦、現役生への援助・育成という志音会の目的にも沿ったものです。

今回はオーケストラの演奏会ですが、来年は合唱も加えた演奏会を計画し、既に練習を開始しております。志音会の活動に対し皆様のご理解とご協力をお願いいたします。（19回卒）



指揮者：藤本 淳也

東京藝術大学指揮科卒業。安宅賞受賞。同大学院修士課程修了。指揮を佐藤功太郎氏に師事。

1995年5月チェコで行われた「ブラハの春」国際指揮者コンクールのセミファイナリスト。

2000年8月には、フィリピンのセブ島にてセブユースシンフォニーオーケストラ（CYSO）を指揮。2001年9月から1年間、ロータリー財団奨学生としてベルリンに留学。ベルリン芸術大学Peter Winkler氏のオペラ実習クラスでイタリアオペラを学ぶ。またベルリン国立歌劇場にてダニエル・バレンボイム氏のもと、モーツァルトのオペラを学ぶ。これまで、群馬交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団をそれぞれ指揮。韓国で行われたThe 6th Arts Festival Dimension 2008にてEnsemble Interactive TOKIOを指揮。日韓両国の現代室内楽作品を演奏。

最近では、都内オペラ団体の各公演に音楽スタッフとして参加すると共に、各地のオペラ団体、オーケストラや合唱団の指導、演奏も行っている。昨年は東京室内歌劇場ハンガリー、ブルガリア公演に参加。

長野県内ではこれまで信州大学交響楽団、長野フィル、長野市響、長野楽友協会、カノラータ・オーケストラ、佐久室内オーケストラ、アンサンブルNOVAと共演。趣味は登山。

東京室内歌劇場指揮会員
昭和音楽大学講師

松本深志高等学校 OB 志音会オーケストラ

第3回定期演奏会



モーツァルト

歌劇「コシ・ファン・トゥツテ」序曲

Wolfgang Amadeus Mozart/'Cosi fan tutte' K.588 Overture

シューベルト

交響曲第7(8)番「未完成」

Franz Schubert/Symphonie Nr.7 h-moll 《Unvollendete》 D759

ベートーヴェン

交響曲第5番「運命」

Ludwig van Beethoven/Symphonie Nr.5 c-moll Op.67

2010年3月22日(祝) 14:00開演

ザ・ハーモニーホール

(松本市音楽文化ホール)

主催:松本深志高等学校音楽部 志音会

SHIONKAI SYMPHONY ORCHESTRA

志音会オーケストラ 出演者

Members

1st Violin	牛山 正博 (23) 倉澤 郁文 (24) 牛山 孝介 (58) 安川 昂志 (在2)	堀口 洋子 (13) 市江 純子 (30) 犬井 啓太 (60) 塩ノ崎 萌 (在1)	山田 哲 (18) 藤田友紀子 (43) 武田 翔 (61)	尾崎 伸子 (21) 牛山 千史 (55) 西川 真理 (在2)
2nd Violin	等々力康友 (15) 波多腰玄一 (20) 平沢 重太 (55) 中林 武尊 (在1)	富田 則子 (18) 高崎 理恵 (23) 小山 星花 (在2) 山田 広樹 (在1)	小笠原理美 (19) 長岡 邦彦 (42) 武田 洸晶 (在2)	東 麻里子 (20) 三澤 冬子 (45) 穂刈 綾 (在1)
Viola	宮入 徹 (33) 久保田希容子 (45) 小林 謙一 (在1)	伊藤 勇夫 (16) 高橋美穂奈 (47) 新田 咲 (在1)	雨宮えりか (31) 棟田 裕一 (友)	氷川 明子 (40) 井崎 遙 (在2)
Violoncello	寺澤 克義 (賛) 井上 果純 (在2)	長縄 建三 (18) 中澤 誠人 (在1)	荒井 翔太 (61) 寺島 洋行 (賛)	茅野 周治 (61) 寺島都志子 (賛)
Contrabass	支倉 早奈 (38) 河西 裕太 (賛)	松谷 仁史 (賛)	有賀 英久 (賛)	藤川 美里 (賛)
Flute&Piccolo	猿田 一世 (35)	小林 芙美 (賛)	西澤真利子 (賛)	
Oboe	市江 雅芳 (友)	山崎 智幸 (賛)		
Clarinet	中條堅一郎 (46)	三浦奈津子 (賛)		
Bassoon	平岡 範子 (賛)	横山 文香 (賛)	口パート・ワインガート (賛)	
Horn	竹前 友敬 (友)	入倉 友紀 (賛)		
Trumpet	塩野 英雄 (32)	横川 憲 (45)		
Trombone	木下 妃咲 (賛)	稲葉 晶子 (賛)	音川俊太郎 (賛)	
Timpani	横山 睦 (賛)			

(): 数字は卒業回・在校生は学年、(友): 団友、(賛): 賛助出演

オーケストラ運営スタッフ

Orchestra Staffs

代表	等々力康友 (15)	インスペクター	宮入 徹 (33)	ホームページ担当	久保田希容子 (45)
運営委員長	長縄 建三 (18)	会計	市江 純子 (30)	広報・宣伝	氷川 明子 (40)
コンサートマスター	牛山 正博 (23)	東京練習担当	山田 哲 (18)		長岡 邦彦 (42)
総務全般	堀口 洋子 (13) 平沢 重太 (55)	管・打楽器担当	塩野 英雄 (32) 横川 憲 (45)		高橋美穂奈 (47) 茅野 周治 (61)

♪ 今後の「志音会演奏会」のお知らせ ♪

Next Concerts

- 2011年3月26日(土)「志音会演奏会」～混声合唱と管弦楽～ ザ・ハーモニーホール メインホール
ヘンデル/オラトリオ「メサイア」より、大中恩/混声合唱曲「島よ」他
- 2012年3月(予定) 志音会オーケストラ 「第4回 定期演奏会」

■モーツァルト／歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」序曲 K. 588

1787年ウィーンに帰ったモーツァルトはグルックの死去により、後任として「宮廷作曲家」の称号を与えられたが名目上にすぎず、経済的な収入も、活躍の機会ももたらさなかった。しかしこうした窮境の中であって、この頃の作曲活動は旺盛で、1788年の最後の三大交響曲、2つの弦楽五重奏曲、ピアノソナタなど数々の傑作が生まれている。翌1789年春北ドイツ訪問後経済的窮乏はますます激しくなっていたが、8月の《フィガロ》のウィーンでの再演が大喝采を博し、その成功は皇帝ヨーゼフ二世の耳にも達していた。直後皇帝から新しいオペラ・ブッフアの作曲の命を受け、皇帝の希望で台本作者には旧知の仲であった、ダ・ポンテが選ばれた。「コシ・ファン・トゥッテ」は《フィガロの結婚》第一幕の三重唱の中のパジリオの言葉“女はみんなこうしたもの”を題名としている。女の貞節について、お互いに意見がくいちがった為、それでは一体どちらが正しいのかと芝居を組んで実際に試してみるという、罪があるような無いような男達の馬鹿馬鹿しい陽気ないたずらが全二幕からなるこの歌劇の主題となっている。モーツァルトは、この台本の全く現実ばなれした芝居の世界の中の事件でありながら、人間の愛情の一面をたくみにとらえている物語を、あくまでも軽やかに描くことに成功している。

序曲は力強い主和音で始まり、弱奏の“女はみんなこうしたもの”のテーマが現れた後、プレストに入り、弦・管楽器がリズムカルに流れる様に奏でられた後、テーマが弱奏で奏されトゥッティの音形に受けつがれ、最後は華やかに閉じられる。

初演はモーツァルト34才の誕生日前日に当たる1790年1月26日ウィーンの宮廷劇場で自身の指揮で行われたがヨーゼフ二世が病気で逝去した為、5回の上演で打ち切られてしまった。その後も上演の記録は多いとは言えず、永らく不遇であったが真価が正しく認識されるようになったのは、19世紀終りになってマーラー、リヒャルト・シュトラウスなどの大指揮者が進んで取り上げ、すぐれた上演を実現してからのこととされている。 【Vc 長縄建三 18回卒】

■シューベルト／交響曲第7(8)番 口短調「未完成」0759

皆さんはシューベルトと聞くとどんな曲を思い浮かべるでしょうか。「野ばら」や「子守唄」「アヴェ・マリア」など懐かしい歌の数々、それともロマンチックなセレナーデ、メロディーを聴けば「ああ、これ」というピアノ五重奏「鱒」、そして何と云っても「未成交響曲」ですね。どれも美しい旋律に溢れています。私は小学校の頃「未成交響曲」という映画も見た記憶があります(年が分かってしまいますが・・・)

シューベルトは、モーツァルトが35歳で亡くなった6年後の1797年、同じオーストリアで生まれました。小さい頃から映画「アマデウス」でも有名なサリエリに音楽の指導を受け、才能を開花させました。歌曲「魔王」を作曲したのが18歳ですから、モーツァルトとしいシューベルトとしい、若き天才を目にするサリエリさんの気持ち、良く分かります! 「未完成」を作ったのが25歳の時。シューベルトはこのシンフォニーを2楽章までで中断してしまいました。その理由はいろいろな説がありますが、彼はこの譜面を友達に預けたまま演奏を聴くことも無く、貧しさと病、失恋の中でも600曲に及ぶ歌曲、器楽曲、8つのシンフォニーを残し、31歳で世を去りました。「未完成」の初演は死後37年経ってから。2楽章だけでも十二分に美しいこの曲は、今では世界で最も愛され親しまれている交響曲の一つとなりました。

ここで我がオケのメンバーの何人かを紹介します。弦楽器の最前列には2人ずつ各パートのリーダーとトップサイドが並びますが、今回は多種多才なトップサイドについて・・・

- ・中年になっても元気なコンサートマスターと共にオケを引っ張るのは、大先輩でありながらオケの細々した実務を嫌な顔一つしないやっつとくださるHさん。彼女の書く美しい字、話す日本語は、これぞ「女性の品格」です。
- ・コンマスより目立つと言われる2ndVnの熱きトップの横には、大きな眼鏡の青年が。「パソコンの事なら何でも来い」の頼もしいH君。これからこういう青年に、オーケストラ運営の中核になって欲しいものです。
- ・オケ全体のムードメーカーであり「何でも悩み事相談」Violaトップ奏者のサイドには、いつも控えめに穏やかに微笑むKiyokoさん。確かな目と文章でオケの様子をレポートし、ホームページも作ってくれる無くてはならない人材です。
- ・「未完成」でも美しいメロディーを聴かせるチェロ軍団のトップサイドは、昨今の今頃は受験生だったC君。高3の時も練習に参加し3月の演奏会の時には第一志望に合格していましたね。これから低弦パートをまとめていってくれるでしょう。
- ・チェロの後ろに立つコントラバスのトップは、はるばる神奈川から練習に参加されるHさん。楽器も心も大きいプレーヤーです。

このようなメンバーと「今やシューベルトの倍も生きた! 団塊世代」「シューベルトの半分の年齢の現役高校生」「働き盛りの30~40代」などが心一つにして、細身の体に情熱を秘めた藤本先生の指揮のもと演奏いたします。♪さあ、チェロとコントラバスの低い序奏に導かれ、天上から響くような美しいオーボエとクラリネットの音色が聴こえてきましたよ...♪

【Vn 富田則子 18回卒】

■ベートーヴェン／交響曲第5番 ハ短調 作品67「運命」

女子高生：今度OBオケで「運命」を弾くんだけど、お父さんが高校生だった頃も、オーケストラで演奏することってあったの？ 父親：昔は合唱と弦楽合同で、中信地区の高校発表会や、文化祭の時に音楽室や講堂で演奏するだけだったな。オケの演奏とはうらやましい。練習はどうだい？

娘：それが意外とパワーが要るの。有名な曲だから楽勝かと思ってたら、運命の練習の後は、いつもすごーく疲れちゃって。

父：それはきっと物理的な体の疲れだけじゃないな。有名な「運命が扉をたたくテーマ」から始まって「苦しみ・争い・哀しみ・怒り」からフィナーレの「喜び」まで、人間が持つ全ての感情が凝縮されている曲だから。

娘：そうそう、ベートーヴェンって、耳がだんだん聞こえなくなってきた、遺書まで書いたのよね。

父：誰にも送られずに机の中にしまい込まれていた「ハイリゲンシュタットの遺書」は、死を覚悟しながらも新たな生を決意して、力強く生きるための手記だったんだ。

娘：それって、すごい前向きな意味を持つ「遺書」だったってことじゃない？ 知らなかったわ。

父：芸術家としての命を全うしようと立ち上がる姿が、この「運命」にも表れている。第4楽章で初めて登場するピッコロやコントラファゴット、トロンボーンの重厚で華やかな響きにも、必死に生きようとする人間の輝きを感じられないか？

娘：そっか、運命が昔から人気がある理由が分かったわ。私も試しに交響曲でも作ってみようかな～

父：お前にはまだ早い！ 演奏中も楽譜ばかり見るな、前を見ろ！！

娘：どっかの携帯CMの「お父さん」みたいな口調で、急にどうしたの？ あれ、お父さんが真っ白い犬に・・・(来年につづく)

第1楽章 Allegro con brio ハ短調 2/4拍子 第3楽章 Scherzo e Trio (Allegro) ハ短調 3/4拍子
第2楽章 Andante con moto 変イ長調 3/8拍子 第4楽章 Allegro~Presto (Finale) ハ長調 4/4拍子

【Va 宮入 徹 33回卒】